

メーカーのラインオフの 状態を上回る品質に挑戦



ガラスも外れフェンダー、ボンネットの総剥離が済んだヘアライン車。塗装直後は分からなくても数年後に確実に差が生じるので、誤魔化さない丁寧な下地処理が不可欠だ。

補強が得意な同社の加藤さんによると「まあ、ボディ補強でいったらほんの初歩仕様ですが、W124は頑丈だからね。後期ボディでも91年前期の5割増し程度のボディ剛性になるでしょう。乗り心地も良くなるよ」とのこと。来月以降の記事を期待されたい。

さて、問題のボディの色だが、何が悪いだろうかと思案中である。個

飛び石跡が目立つ前ガラスと、リアの熱線回りが白くなったリアガラスは交換し、あと10年、ガソリン燃料がなくなるまで乗れるようフルレストアすることになった。

まずは、えちごや号に連れて、リアのトランクのタイヤハウスの高さをフロアに合わせてカットし、フルフラット化。CD値0・30と優れたボディであるが、超高速域でリフトが出る特性を修正し、グラウンドエフェクトでダウンフォースを稼ぐ。

しかし、これだけではほかのクルマと同じでつまらないとの意見をいただき、500E倶楽部ならではのオリジナルを少々加えることにした。

職人技術で叩いて直すイメージが強いサバイブだが、付近の有名ショップのボルシェ、GTRやRX7、NSXなどのデモカーの補強を数多くこなしているから、ノウハウは豊富である。

補強が得意な同社の加藤さんによると「まあ、ボディ補強でいったらほんの初歩仕様ですが、W124は頑丈だからね。後期ボディでも91年前期の5割増し程度のボディ剛性になるでしょう。乗り心地も良くなるよ」とのこと。来月以降の記事を期待されたい。



フェンダーを外してみると、インナーフェンダーのすき間から泥水がたまって、12年分の地層を形成していた。ここは定期的に分解して洗浄が必要



新車並行で室内保管した車でも生じてくるトランクモール回りの錆。つつくと小さな穴が開いてしまったのでロウ付けで補修後、下処理を行う。



これはトランクストッパー回りの雨水によってたまった泥の蓄積。室外保管のクルマだとコケが生えたりしていることもあるよ。

端まで6度のアングルで整流させ負圧を発生させる仕組み。これでバンパー下側をフラットにしてデフューザーを付ければウイング不要モデルのでき上がり(えちごや/ゲンロク仕様)。
写真は次号以降に掲載予定だが、お近くの方はぜひ御覧になってほしい。板金屋さんが製作途中のクルマはなかなか見られないと思う。
フェンダーを外すと12年分の砂土砂が地層になっていた。スチムをかけて清掃。ラジエター前のコンデンサーとオイルクーラーもスチムをかけた。サバイブでは、バンパーやフェンダーを外した時は必ずスチムを噴くようにしているとのこと。これで水漏、油漏も下がるはず。
ここまでやってしまうと、元に戻るんだらうかとやや不安。W124の塗装はどんなに大事に使い、室内保管でも10年程度でクリアと下地が割れてくるとのこと。特に熱の影響がある500Eのボンネットとフェンダーはひどかった。次号は引き続きサバイブでのレポートをする予定。

500E倶楽部

第9回

熱血的 W124 愛好家の広場

着々と進めていたオールペン計画。今月からスタートです。さて、W124の最大の弱点は何でしょう? エンジンハーネスの劣化、イグナイターのパンク、ASR? いえ、実は塗装だったんです!?

文・撮影=ニイベサシ
協力=スピードジャパン / サバイブ / エスファクトリー / えちごや / ピリオン

今月のメニュー

- オールペイント準備
- 夏対策メンテナンス 2



全部外して塗るから オールペン!

塗装面のクリアがひび割れてヘアライン状になったことから名付けられた「ヘアライン号」。W124時代の塗装は硬い皮膜と美観に秀でてはいるが、経年変化で塗膜がひび割れてしまうという弱点があり、それを直すには全塗装が必要となる。その意味では、稀代の名車W124最大の弱点は塗装かもしれない。



誌上最大の フルレストア作戦開始!



タイヤハウスカットが完了した外観。デフケース、タイヤの太さが強調されリアからの迫力も倍増。デフ後からバンパーまでの角度はGTカーのデフューザー角と同一。



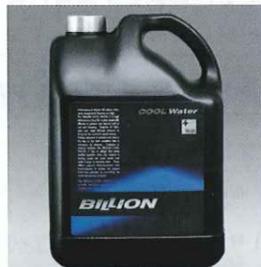
さて、事故後のサフェーサー補修もドリ車風で気に入ってはいたが読者、関係者の皆様から「古いクルマをボロく乗ったらダメ、綺麗に乗ってナンボ」「みっともないから早く塗れ」などの声を多数いただいた。
そこでえい、やっただえ、ということでオールペンに着手。
今回お世話になるのは、板金塗装の分野で「現代の名工」の誉れ高い埼玉県川口市のサバイブ。
職人氣質の遠藤社長は、「丸ペンつ

ていうのは、外せるものはゼーンぶ外して丸ごと塗るから丸ペンって言うんだ。いろんな方法もあると思うけどね。分解しないでマスキングや下地を誤魔化して塗る作業は、どーも性分に合わねえんだよ」と語る。
打ち合わせの結果、外せるものは全部外すこと、特に熱で傷みの激しいボンネットとフェンダーは総剥離、錆びが出ていたらろはキチンと下地から補修すること。欠品が増えているボディのゴム類は今のうちに全交換。

500E 倶楽部

熱血的 W124 愛好家の広場

純正クーラントに国産 LLC の混入は水温・水回小トラブルの元凶。水道水のカルキや塩素成分を嫌うユーザーは、バッテリー用蒸留水を利用して使用する。



500E を初めとする大排気量/強力馬力の欧州車向けにピリオンがリリースする高性能クーラント。蒸留水利用の希釈済みで手軽に利用できる。



Jオートの松本氏が強く推奨するリキッドフロスの添加剤。デモ車の E60 で実際に使用して効果を体感しているとのこと。ヘアライン号にも投入予定。

「えちごや」オリジナルパーツ!!



えちごやオリジナルのアルミホイール。ファン用は小径化、ウォーターポンプ用はキャビテーション対策で大径転化し水温対策。ALT&PWS のセットで10万円となっている。

の300TD用のヒッチメンバー用オプションとして、右フエンダー内に空冷のATFクーラー設定がある。そのステーやファンなどを利用してW140のコアなどをボルトオン流用する方法や、社外のコアを使用するのが一般的。国内東西の有名チューナーの手掛けたクルマにはいずれも装着してあった。水温低下だけでなくオートマの寿命を延ばすことから熱の厳しい6リッターオーナーには

マストアイテムだ。クーラントは純正が専用設計されたものを使うこと。三番目はクーラント。メルセデスには純正クーラント使用が指定されているのを御存知だとは思って、一部では国産のクーラントを混用して使用しているところもある。純正のクーラントとは成分も異なるため、スラッジの発生や水温が上がったま

夏 対策メンテナンス

本格的な夏を安心して乗り切るためのポイント

好評につき
第二弾!



オーナーの中には夏には乗らないという人もいるくらい、夏が苦手の E500/500E。そこで安心して夏を乗り切るために必要なノウハウを紹介しよう。基本を押さえて、当たり前のことをやればもう水温計は怖くない!

純正品の流用と国産チューニングカーのノウハウを生かして COOL IT!



水温はブロック温度 70℃、メーターではこの位置が理想。水温遅角補正が入るため 105℃超では、鈍い人でも体感でパワー低下を感じる。

オイルクーラー未装着車は早急に

500E 正規輸入車にはエンジンオイルクーラーがない。地球温暖化の影響で熱帯化が進む日本の夏。そこで純正品の優れものを流用することや、熱に苦しんでいる国産チューニング車で夏を乗り切っているのと同様の対策で夏を乗り切るメンテナンスの続編を紹介しよう。最初は、冷却水と並んで冷却系の要となるエンジンオイル。残念なことだが、W124のE500/500Eの正規輸入車にはエンジンオイルクーラーが装着されていない。

「大パワー車なのに?」と驚かれる読者も多いと思うが事実である。日本の高速道路の最高速度が100km、米国のハイウェイが60マイルであったことから、そのスピードじゃあオイルクーラーはいらないでしょうとのこと。日米向けのクルマには未装着となったとか! 高速巡航時の登坂路で水温が異常に上がるのを経験している読者も多いはず。オイルクーラーを装着すれば、油温を下げることで、より水温も下がるし、オイルの劣化やスラッジの発生も防ぐ。さらにオイル交換のスパンも延ばせるし、エン

ジンの傷みも減少するなど良いことづくめ。純正品を流用すればボルトオンである。まだ未装着車が多いせいか、スピードジャンプの北村さんによれば夏前後の定番人気商品であるとのこと。続くは、ATFクーラー。純正品ではラジエターの中にパイプを通して冷却するといった温水冷式。ストッパ&ゴアの多い市街地ではATFも当然高温となるから、ストッパをたいて冷房をかけているようなもので、水温が上がる主要原因になっているのが事実。純正品としてはW124



新エンジン搭載時に熱対策を行なったエンジンルーム。燃料系の断熱はガソリン温度の上昇防止に有効。熱せられたガソリンでは冷却に不利だしパワーも出ない。



エンジンルームの空気の抜けが極端に悪い E500E にはダクト加工が有効。アンダーカバーにルーバーを設けることによりラジエターの熱気を効果的に排出する



ヘアライン号でも使用したピリオンスーパーモクロス。断熱だけでなく遮熱効果も耐久にも兼ね備える。

ま下がりつらいといったトラブルの原因となっている。エンジン分解時に冷却水通路を見れば管理の悪い車両は一目瞭然。大切な愛車には純正のクーラントか、専用設計されたクーラントを使用し、混用を行わないことが肝要である。

四番目に紹介するアルミブリーセットは、純正のスチール製のブリーリーの直径を変更し、ジュラルミンの削り出しで製作したもの。ファンの回転を早くして冷却効果を高め、高回転時のキャビテーション・泡立ちを抑えるためにゆっくり回転するなどの比率変更を行なっている。国産チューニング車では定番のパーツなので効果の方は折り紙付き。前期の8山と後期の6山ベルト用がある。五番目は、エンジン載せ替え時にも紹介した耐熱・遮熱材による熱対策。センサーを設けて測定したところ、走行中でもエンジンルーム内の温度は夏場では水温の温度+αと

なっている。インジェクターのデリバリーチューブやフューエルラインがこの熱に晒されているため、ガソリン温度の上昇となり、ガソリン密度の低下やバレーションの原因となっている。これらを防ぐためには遮熱材断熱材の利用が不可欠である。水温以外にも吸気温度の低下や高価な配線の劣化防止にも役立つのがうれしい。



次号予告

初公開のボディ補強、スポット増しをお届けします

今回はレストア中のボディ補強。スポット増しとCFRP補強などを初公開です。新生E500/500Eにはどんな色が似合うのか?皆さんの意見をぜひお寄せください。